



JSQC ニュース

No.248

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス グリーン調達の実現化の動向
- 2-私の提言「品質管理学会のこれからの期待する」
- 2-ルポルタージュ 第87回関西講演会ルポ
- 3-各賞表彰/デミング賞/第33年度役員体制/役割分担
- 4-行事案内/10月入会者紹介/領布のお知らせ

グリーン調達の実現化の動向

(社)電子情報技術産業協会 (JEITA) 環境・安全部長 桑原 孝

欧州の化学物質規制への対応が注目されるにつれ、グリーン調達に関わる調査が増加傾向にあります。調査内容や方法について標準化を図るため、2001年1月より、電気・電子機器メーカーの有志が集まり、部材・部品中の含有化学物質調査の実現化について、検討を始めました。この組織の拡大に伴い、2002年4月より、「グリーン調達調査共通化協議会」(JGPSSI)として活動を始めました。

1. はじめに

近年、グリーン調達に関わる調査、特に、部材・部品中に含有する化学物質の調査が活発になっています。このような調査は従来から実施されてきましたが、欧州の化学物質規制への対応が注目されるにつれ、急激な増加傾向にあります。一方、調査内容や方法については、標準となるものが存在していないため、各社ごとに独自調査を展開されるに至り、社会全体がたいへん非効率になってきています。

そこで、2001年1月より、電気・電子機器メーカーの有志が集まり、部材・部品中の含有化学物質調査の実現化について、検討が始まりました。この組織の拡大に伴い、2002年4月より、(社)電子情報技術産業協会 (JEITA) の環境・安全部に事務局をおいて運営管理を行っており、組織名称は「グリーン

調達調査共通化協議会」(JGPSSI)となっています。

2. 共通化ガイドライン

2001年から約1年の議論を重ね、2002年4月にトライアル用の「グリーン調達調査共通化ガイドライン」を発行し、準備が整った企業から順次運用を開始しました。ガイドラインの中では、主に、「共通化学物質リスト」および「共通回答フォーマット」を定義しており、各社はこのルールに則り、運用を行いました。トライアルを実施した結果、サプライヤ側の努力もあり、従来の回答期間短縮や回答データの精度向上など、概ね良好な結果が得られています。

さらに、後述する欧米業界団体との協議をもとに、2003年7月にガイドラインを改訂しました。

「共通化学物質リスト」は、全29物質群となっており、レベルAとレベルBに分けられています。レベルAは、国内外の法令で含有製品の販売・使用に関し、禁止または制限など受ける物質を中心に選定されています。レベルBは、リサイクル時に情報が有用な物質、環境・健康・安全の観点から影響の恐れのある物質、廃棄時の有害性に関する法令がある物質等を中心に選定されています。

また、「共通回答フォーマット」は、トライアル時の内容に微修正を加え、

データ項目と定義、データ並び順などを規定してあります。データの入力用として、推奨の「調査回答ツール」もフリーウェアソフトとして準備しました。

なお、運用面での共通化も図るため、「調査マニュアル」の作成や解説書「グリーン調達の実務」を発刊し、普及に向けた整備を行いました。

3. 欧米との共通化

調査の実現化については、もはや国内だけの課題ではありません。そのため、JGPSSIでは早期の段階から欧米の業界団体と接触を行い、国際標準への視野も入れ、議論を重ねてきました。具体的には、欧州情報通信技術製造者協会 (FICTA) や米国電子工業会 (EIA) と定期的に協議を行い、2003年9月の会合において、調査対象化学物質や調査フォーマットといった内容で大筋合意が得られた段階です。三極ガイドライン案も策定され、近々発行される予定になっています。

4. 最後に

関連情報は、JEITA:環境・安全部のホームページ (<http://home.jeita.or.jp/eps/>) に掲載していますので、アクセス願います。JGPSSIで議論した内容は、あくまで自主的なガイドですが、共通化による効率化のためにも普及促進へのご協力をお願いします。

私の提言

品質管理学会のこれからの期待する

青山学院大学 教授 天坂 格郎



国内外の製造業が生き残りをかけた熾烈な競争が進む中で、昨今の顧客満足を著しく損なう度重なる品質問題を直視するとき、「製造業の品質経営のあり方」を再認識しなければならない。グローバル生産で世界をリードすべきは日本の日本企業の昨今のリコールの増加や、発展途上国の著しい品質向上などの現状を捉えるとき、日本の「品質技術力」の再強化を警鐘している。

例えば、現場のもの造りの姿がデジタルエンジニアリングで一変してきている中で、もの造り（現場）の技術力が低下し、問題発見能力や問題解決力の低下が露呈し、品質の造りこみが脆弱になってきているのではなからうか。製造現場からは「管理図」活用が風化している現状を見据えると、工程で品質を造り込むという、日本的品質経営の専売特許とも言える「科学的品質管理法」が希薄になってきている事象が散見される。これまでの成功体験に囚われず、旧態の品質管理に固執せず、デジタルエンジニアリングで装備された生

産現場に適應する、「新たな品質管理技術」を確立することが急務であるといえよう。

そのためには、着実な進歩を遂げてきた日本品質管理学会に対するさらなる研究と諸活動の充実への期待は大きい。ものまねを戒め、技術の進化に乗り遅れない、世界をリードできる日本独自の品質経営の原理や、次世代に通用する品質管理技術の再構築が今必要と考える。

縁あって、日本品質管理学会の理事（第32年度-第33年度）の経験も活かし、現在は次世代の品質経営技術「ジャパンメソッド」の確立を目指して、「製造業の品質経営あり方研究会」（財）日本科学技術連盟と共催）に取り組んでいる。世界を見据え、これからも産学の協創により、「品質経営技術の体系化」に向けて深耕研究に励みたい。

第87回関西
講演会ルポ「企業経営と顧客価値創造」
ユニ・チャーム『3つのDNA』
の実践による経営革新

去る10月6日(月)の午後、エス・バイ・エル(株)本社に於いて第87回関西支部講演会が開催された。

当日の参加者は56名で、高原慶一朗氏(ユニ・チャーム(株)代表取締役会長)の講演、講演を基にしたパネルディスカッション、総合質疑と熱のこもった議論が展開された。

【講演】

「企業経営と顧客価値創造」をテーマに、1. 高原慶一朗の思い 2. 戦略経営の基本 3. 企業価値を構成する「三つの価値」を柱とした“対話型”の講演となった。

「三つの拡大好循環」、「三つのDNAの実践」、「リーダーの生き様」を切り口として、熱く思いが語られた。個人の人生観が、産業観へつながり、国家観へと結びつくという基本的コンセプトを皮切りに、人間価値、

会社価値、社会価値という三つの価値を高める戦略が企業を発展させる。それらを実現させるための手段として、人材育成と業績向上に主眼を置き、意欲・態度・能力を有する優れた人材を輩出すべく、企業、個人ともに変化をし続け、新しい価値創造ができるように、P-D-C-next・Actionで考えることが重要との語りかけであった。

多くの思いの中でも我々に送られたメッセージとして、「心の生活習慣病」、「変化価値論」、「原因自分論」などが挙げられる。当たり前を疑い、変化することで未知なる価値を創出し、他責で考えず、物事の原因と責任を自らの中に求めるといったものであった。

【パネルディスカッション・総合質疑】

リーダーに岩崎日出男氏、パネラーの猪原正守氏を加え、フロアとの様々な意見交換が行われ、演者・参加者・パネラーの三者にとって価値あるものとなった。

今回の講演会をきっかけに、参加者個々の行動が新たな拡大好循環となるよう、個人、学会とが有機的に機能していくことに期待をしたい。

松井直樹(日本科学技術連盟)

各賞表彰

第33回通常総会において、名誉会員に太田和宏氏（豊田紡織）が推薦され、第32年度研究奨励賞1件、品質技術賞2件、ならびに品質管理推進功労賞5氏の授章および表彰が行われた。

研究奨励賞

『品質向上期待度に基づく顧客満足の経年変化パターンとマーケットシェアとの関係』

池庄司 雅 臣 氏（東京工業大学）「品質」Vol.33, No.3 pp.93-103（2003）

品質技術賞

『タグチメソッドとは

- その発展と特徴、品質管理技術の中での位置づけ - 』

立 林 和 夫 氏（富士ゼロックス株）「品質」Vol.33, No.1, pp. 9-18（2003）

『調査データによる企業評価システムの構築 - 「日経プリズム」の10年 - 』

鈴 木 督 久 氏（株日経リサーチ）「品質」Vol.33, No.3, pp.59-66（2003）

2003年度 品質管理推進功労賞

品質管理推進功労賞5氏（五十音順）は次のとおりです。

- 青 木 昭 氏 青木QA事務所 元・関西日本電気(株)
- 石 山 敬 幸 氏 元・アイシン精機(株)
- 大 野 智 之 氏 日本特殊陶業(株)
- 茂 田 芳 昭 氏 JUKI株式会社
- 高 橋 富 男 氏 ビジネス・クリエーション・コンサルティング 元・住友金属鉱山(株)

デミング賞委員会（委員長 奥田 碩）において、2003年度デミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は11月11日経団連会館にて執り行われました。

1. デミング賞本賞

吉澤 正 氏 帝京大学 教授（当学会第28年度会長）

2. デミング賞実施賞（企業名五十音順）

- 株式会社ジーシーデンタルプロダクツ
- Brakes India Ltd., Foundry Division
- Mahindra & Mahindra Ltd., Farm Equipment Sector
- Rane Brakes Linings Ltd.
- The Siam Refractory Industry Company Ltd.
- Sona Koyo Steering System Ltd.
- Thai Paper Company Ltd.

3. デミング賞事業所表彰

Birla Cellulosic (A Unit of Grasim Industries Ltd.)

4. 日経品質管理文献賞（文献名五十音順）

- (1) 「医療における総合的質経営」 飯田 修平 氏 著
- (2) 「超ISO企業」 飯塚 悦功 氏 代表
- (3) 「トヨタ式未然防止法・GD³」 吉村 達彦 氏 著
- (4) “Covariate selection for estimating the causal effect of control plans by using causal diagram”
黒木 学 氏、宮川 雅巳 氏 著

第33年度役員体制決まる

去る11月8日に開催された第33回通常総会において新役員が選出承認され、第33年度の役員体制は以下のとおり決まった。

会 長	飯塚 悦功	東京大学 教授
副会長	飯田 修平	練馬総合病院 理事長・院長
"	久保田洋志	広島工業大学 教授
理 事	荒木 孝治	関西大学 教授
"	大西 匡	豊田工機(株) 取締役会長
"	大野 正直	日本ガイシ(株) 取締役副本部長
"	尾島 善一	東京理科大学 教授
"	兼子 毅	武蔵工業大学 講師
"	上窪 均	(財)日本科学技術連盟 室長
"	神田 範明	成城大学 教授
"	杉山 哲朗	中部品質管理協会 専務理事
"	竹下 正生	(財)日本規格協会 部長
"	椿 広計	筑波大学 教授
"	中島 昭午	エス・バイ・エル(株) 代表取締役会長
"	仁科 健	名古屋工業大学 教授
"	松本 隆	(財)日本規格協会 調査役
"	宮川 雅巳	東京工業大学 教授
"	棟近 雅彦	早稲田大学 教授
"	山崎 正彦	元 コニカ(株)
"	渡辺 喜道	山梨大学 助教授
学合理事	安藤 之裕	(財)日本科学技術連盟 囑託
"	石井 成	早稲田大学 助手
監 事	圓川 隆夫	東京工業大学 教授
"	藤原 庸隆	日本電気(株) 統括マネジャー

第33年度役員役割分担表

投稿論文審査	尾島 鈴木(和)
編 集	久保田
広 報	山崎
事 業	神田
研 究 開 発	宮川
規 定	竹下
会員サービス (資格審査)	松本 山崎
選 挙 管 理	飯塚
庶 務	棟近
最優秀論文賞	久保田 尾島
研究奨励賞	久保田 尾島
品質技術賞	飯田 久保田
品質管理推進功労賞	飯塚
国 際	渡辺 兼子
標 準	椿
長 期 計 画	飯塚
W e b 特 別	兼子 渡辺
研究助成特別	仁科
A N Q 担 当	安藤
QC相談室特別	荒木
学術会議関係	圓川 棟近
医 療 分 野	飯田
中 部 支 部	大西 仁科 大野 杉山
関 西 支 部	中島 荒木

委員長 副委員長

行事案内

ISO9001:2000 審査員のための
TQM基礎講座(本部)

- 毎月1回5回開催・会員優先 -

参加費: 会 員3,000円

(5回連続申し込み: 12,000円)

準会員2,000円

(5回連続申し込み: 6,000円)

非会員6,000円

定 員: 毎回先着100名

時 間: 毎回18:30~20:30

会 場: 日本科学技術連盟

東高円寺ビル地下1階講堂

プログラム:

第1回 12月18日(木)

TQMのフレームワークと基本原則

担当: 中條武志氏

第2回 1月19日(月)

方針管理と改善活動

担当: 村川賢司氏

第3回 2月12日(木)

TQMのための手法 - SQCとその活用 -

担当: 山田 秀氏

第4回 3月5日(金)

日常管理と標準化、品質保証

担当: 棟近雅彦氏

第5回 4月9日(金)

新JISと標準化をめぐる最近の動向

担当: 矢野友三郎氏

申込方法: ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

申込締切: 2003年12月11日(木)

第38回クオリティバブ(本部)

テーマ: 品質第一か、環境第一か、あるいは安全第一か

ゲスト: 吉澤 正氏(帝京大学教授)

日 時: 2003年12月10日(水)18:00~20:00

会 場: 日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階ラウンジ

参加費: 会 員3,000円 非会員4,000円

準会員・学生一般2,000円

(含軽食・当日払い)

詳 細: ホームページをご覧ください。

申込方法: 本部事務局宛E-mailまたはFAX

にてお申し込みください。

定 員: 30名

特別企画: 大阪開催(本部)

テーマ: ISO9001:2000に基づく第三者審査のためのガイドライン説明会

日 時: 2004年1月16日(金)9:30~17:00

会 場: 中央電気倶楽部 講堂

プログラム:

オリエンテーション

第1章 審査方法の基本に関する指針

第2章 プロセスに着目した審査技術に関する指針

第3章 品質マネジメントシステムの有効性評価に関する指針

第4章 審査チームに求められる専門知識に関する指針

第5章 審査員個人に要求される品質管理の知識に関する指針

第6章 審査員の力量・適正評価とその活用に関する指針

講演者: 福丸典芳氏(福丸マネジメントテクノ)

中條武志氏(中央大学)

定 員: 200名(会員優先)

参加費: 会 員5,000円(締切後5,500円)

準会員2,500円

非会員7,000円(締切後7,500円)

学生一般3,500円

申込方法: ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

申込締切: 2004年1月9日(金)

行事申込先

本 部: 166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

(財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

(社)日本品質管理学会

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

2003年10月の入会者紹介

2003年10月22日の理事会において、下記のとおり正会員39名、準会員5名、賛助会員1社の入会が承認されました。

(正会員39名) 谷宗親(ブリヂストン) 木村次雄・加藤雄一郎(名古屋工業大学) 小田部讓・広常伸二・石崎俊郎(シャープ) 石鳳波(中国 中山大学) 大澤武司(マキタ) 木村幸夫(キムラユニティー) 綾真和(松下電器産業) 藤森義行・細谷立男(セイコーエプソン) 池上敬一(獨協医科大学越谷病院) 神崎進(かんざき経営研究所) 山元裕一(山梨県環境科学検査センター) 向信博(三菱レイヨン) 田畑徹(メタルテック) 水流聡子(東京大学) 石川宜正(松下電器産業) 安井勉・中村薫(アイシン精機) 山下和郎(BSIジャパン) 吉富公彦(新日本無線) 豊武和生(理化学工業) 嶋田靖文(小島プレス工業) 森利則(JUKI大田原) 田中孝一(日本電気通信システム) 中村正昭(グラバックジャパン) 小谷芳昭(オムロン) 齋藤俊太郎(新日本製鐵) 八木澤真一(大和ハウス工業) 近藤正孝(アラコ) 石本真志(ダイキン工業) 三角竜二(三菱重工業) 山崎博之(ニッタ) 市川裕康・板野裕博・川嶋伊久雄・三矢金平(豊田自動織機)

(準会員5名) 成瀬光弘(東京理科大学) 浅野賢二郎・鈴木創一朗・小林崇志(青山学院大学) 金燕(朝日大学)

(賛助・公共会員1社1口)

(社)日本能率協会

正 会 員: 3099名

準 会 員: 129名

賛助会員: 183社209口

公共会員: 21口

事務局からのお知らせ

研究会報告書頒布のお知らせ

この度、下記の成果が本学会の研究成果としてまとめられましたので、ご希望の方に実費で頒布いたします。

A. 「知識創造実践研究会 報告書」

B. 「TQMにおけるビジョン経営事例研究会 報告書」

1. 申込方法: E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、送付先住所、電話番号をご連絡の上お申込みください。

申込先: 本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

2. 資料代: A. 1冊(A4判62頁)会員1,000円(税込み)非会員1,300円(税込み)
B. 1冊(A4判80頁)会員1,200円(税込み)非会員1,700円(税込み)
送料(冊子小包): AB共1冊210円、2冊290円 他多数の場合、事務局までご連絡ください。申込みと同時に下記宛お振込みください。

振込み先: (社)日本品質管理学会

三井住友銀行 渋谷支店 普通預金 0922517

資料は入金を確認の上、郵送いたします。